

モバ 極めろ



第3回

テーマ

ハードディスク
活用編
不要ソフトの整理から
大容量タイプへの
交換まで

古いノートPCにはハードディスクが小さいものが多い。今回は、限りある容量を活用するために不要ソフトの整理・削除とユーティリティによるパワーアップ、そして最終手段としての交換について解説しよう。

Illust : Karasawa Nawoki

【ハードディスクの容量不足は解消できる!】

最近のモバイルノートPCは1.6Gバイト~2.1Gバイトクラスのハードディスクを搭載することが標準的になってきた。しかし、ほんの1年ほど前までは、標準的な搭載ハードディスクは800Mバイト~1Gバイトクラスだった。これでもOSだけしかインストールされていなければ、最初のハードディスク使用量は200Mバイト程度なので、いくつものアプリケーションをインストールする余裕があるだろう。しかし10本を超すアプリケーションがプリインストールされているような機

種では、デフォルトでユーザーが使えるエリアは、ハードディスク全体の半分以下ということもある。これでは本当に必要な、または好みのソフトのインストールができないのはもちろん、スワップ用のフリーエリアまで足りなくなって、日常の使用でストレスが溜まってしまう。

そこで今回は、容量の少ないハードディスクを有効活用する方法を解説していく。まず、不要なアプリケーションの削除を行い、次に必要最小限のアプリケーションのインストール、アンインストーラーがないソフトの削除法、そして最後の手段として大容量ハードディスクへの交換へと進む。これで「ハードディスクが足りない!」というストレスはすべて解消だ。

ノートPCで

イ

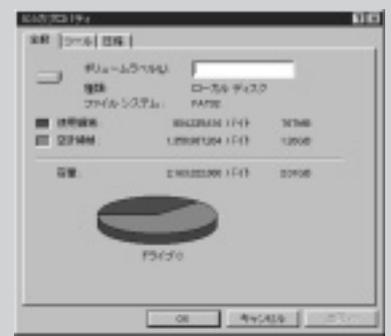
どこでもオフィスを

ル

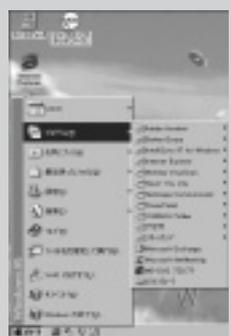
実現する

道

削除前



削除後



たくさんのソフトがプリインストールされているVAIO PC9505

上の「削除前」は、ソニーのVAIO PCG 505EXの初期のハードディスクのプロパティとプログラムメニューに登録されているソフトの一覧。下は同じ機種でウィンドウズ95の「アプリケーションの追加と削除」だけで削除できるソフトを消したところ(ただし、パワーマネージメントなどの機種固有のアプリケーションは消していない)、約200Mバイトの空きが期待できる。

【 不要アプリケーションのアンインストールで100Mバイト単位の空きが! 】

左ページの画面写真は、ソニーのVAIO PCG 505EXのデフォルト時と、ウィンドウズ95の「アプリケーションの追加と削除」で削除できるアプリケーションを削ったあとのハードディスクのプロパティ（容量）とプログラムメニューだ。プリインストールソフトが最初から約700Mバイトも占拠している。この「EX」のハードディスクは2.1Gバイトあるのであまり気にならないが、最初のモデル（PCG 505）は1Gバイト中500Mバイト以上も占拠されており、日常使用するビジネスソフトのインストールには難儀したものだ。1年ほど前のノートPCでは、メーカーは違っても状況は同様だろう。

しかし上記の方法で不要ソフトを削除するだけで、200Mバイト以上も空きを増やすこ

とができる。このVAIOの場合はビジネスソフトが入っていないので、仕事に使うなら、それらを入れるためにこれくらいは空けてしまいたいものだ。

このとき、ワープロや表計算など、自分が使うソフトを削除する必要はない。だが、以下のようにオプションを選択することによってサイズを小さくすることもできる。インストール後にオプションの変更ができないソフトは、一度削除してしまうのも1つの手だ。

【 マイクロソフトオフィスは最小100Mバイトでインストールできる! 】

アプリケーションは、オプションを選択することによって大幅に小さくインストールすることができる。下にマイクロソフトのオフィス97（プロフェッショナルエディション）のインストールサイズを例に挙げた。「標準」では約

220Mバイト、「最大」では約300Mバイトもハードディスク容量が必要だが、「カスタム」でオプションを選択していけば、オフィスのソフト5本を入れても100Mバイトで済んでしまうのだ。すでに日常的にこれらソフトを使っているユーザーなら、サンプルファイルはもちろん、ウィザードやヘルプファイルまで削除しても問題ないはずだ。なお、ヘルプなどのファイルを追加した場合は「参考」のように約160Mバイトとなる。いかにヘルプファイルが大きいかわかるだろう。ソフトのインストールでは、必ずオプションを選択するようにして、無駄なファイルは最初からできるだけ入れないようにしよう。

また、デフォルトでインターネットエクスプローラとコミュニケーターといったように、同種のソフトが複数入っている場合がある。こんなときも、使わないほうを迷わず削除してしまおう。あとで使いたくなったら、また入れればいいのだから。

OFFICE97 Professional Editionのインストールに必要なハードディスク容量



OFFICE97 Professionalのインストールに必要なハードディスク容量

	最大	標準	カスタム(最小)	参考
OFFICE Pro97	303154	226834	102604	167381
Word	82071	53076	30185	37419
Excel	46667	23493	8355	20581
PowerPoint	41166	34185	22631	30921
Access	74652	41213	17121	41437
Outlook	41689	39065	24312	35865
その他	16909	35802	0	1158

単位 = Kバイト

オフィスの5本のソフトすべてをインストールすると最大300Mバイトが必要だが、手動でインストールすればわずか100Mバイトですませることもできる。この場合は極端な例で、ヘルプファイルさえまったく入れていないのだが。

最小



最小インストールから参考1インストールに追加したファイル

Excel	Word	PowerPoint	Access	Outlook
ヘルプ	ヘルプ	ヘルプ	ヘルプ	ヘルプ
10210KB	7235KB	8290KB	15749KB	4642KB
その他			その他	その他
704KB			8569KB	6912KB
AccessLink			ウィザード	MS エクスチェンジ サーバーサポート
自動保存			カレンダー コントロール	祝日とフォーム
条件付き合計 ウィザード				

表1の「最小」から、より現実的な「参考」にしたときに追加したファイル。ヘルプファイルがべらぼうに大きいのがわかるだろう。

ハードディスクが汚れには アンインストール用の ユーティリティが効果的

不要ファイルは、まずはアプリケーション単位で削除する。これは簡単だ。しかし、いろいろなソフトを入れたり削除したりしていると、そのディレクトリーだけでなくwindowsやsystemのディレクトリーやレジストリーファイルにわけのわからないファイルや記述が残ってしまうことがある。これは「アプリケーションの追加と削除」ではきれいに掃除することはできない。そしてハードディスクを食うだけでなく、マシンの動作を不安定にしまう。日常的にスキャンディスクやデフラグを行えばある程度のムダ使いは避けられるが、時間がかかるわりに、決定打にはなってくれない。そんなファイルの削除に有効なのが、アンインストールのためのユーティリティソフトだ。従来のこのタイプのソフトは、それ

を入れた時点のOSの環境などをファイルとして記憶しているものが多かった。そして、それ以後にインストールしたソフトを削除するときには、インストール以前の環境のファイルと照らし合わせて、無用のファイルを探して削除してくれるわけだ。そのため、この種のソフトは、OSのインストール後、できるだけ早くインストールしておかなければ意味がなかった。

ところが、最近のこの手のソフトは、すでにインストールされているソフトのファイルの関連性まで判断して、アンインストーラーのないソフトや不要なショートカット、長期間使われていないファイルなどの「アプリケーションの追加と削除」では削除しきれないファイルを捨てることができるようになっている。

イー・アイ・ソフトの「DX TOOLS Ver.4.0」やサイバメディアの「Uninstaller」やシマンテックの「Norton Uninstall Deluxe」（4月発売予定6,800円：<http://www.symantec.com/region/jp/>）では、アプリ

ケーションソフト本体のアンインストールだけでなく、ウィンドウズのシステムへの追加ファイルやレジストリー内の不要な記述の削除などの再編成やINIファイルの編集なども行うことができる。ベータ版や体験版などの製品版より安定性に不安のあるソフトを試すことが多い人や、インターネットでプラグインやフリーウェアなどのアンインストーラーのないソフトを頻りにダウンロードして出し入れする人は、これらを入れておいて損はないはずだ。むしろこれらのソフトを入れておかないことには、ハードディスク容量をムダにしたり、動作に安定性を欠くことになるかもしれない。

これでも足りなきや 大容量ハードディスクに 交換してしまえ！

ここまで説明してきた方法を使えば、限りあるハードディスクを何割も有効に使うことができる。しかし実際の容量が増えたわけではないから、いつかは足りなくなることもあるだろう。デスクトップPCなら、内蔵でも外付けでも、ハードディスクを「追加」するのは簡単だ。では、ノートPCではどうか？ PCMCIAのタイプのハードディスクなら、追加することはできるが、PCカードスロットが使えなくなってしまう。SCSIのPCカードを使えばデスクトップPC用のハードディスクを使えるが、持ち運びはできない。ノートPCでハードディスクの容量を増やすには、交換（換装）するしかないわけだ。

左の表は、現在購入できるノートPC用の主な大容量ハードディスクだ。価格はデスク



イー・アイ・ソフトの「DXTOOLS Ver.4.0」は9,800円。
URL <http://www.aisoft.co.jp/>



サイバメディアの「Uninstaller」は9,800円。
URL <http://www.cybermedia.co.jp/>

ノートPC用の主な大容量ハードディスク

厚さ(mm)	容量(Gバイト)	メーカー	型番	実勢価格
8.5	2.1	東芝	MK-2105MAT	36,900円
9.5	1.6	IBM	DDLA-21620	26,100円
9.5	2.1	IBM	DYKA-22160	34,500円
9.5	3.2	IBM	DYKA-23240	52,300円
12.5	2.1	IBM	DTNA-22160	28,800円
12.5	3.2	IBM	DTCA-23240	48,500円
12.5	4	IBM	DTCA-24090	62,500円
12.5	5.4	IBM	DADA-25400	----
12.5	6.5	IBM	DADA-26480	----
12.7	1.4	東芝	MK-1403MAV	19,800円
12.7	2.0	アイ・オー・データ	HDNV-2G	36,800円
12.7	2.1	東芝	MK-2103MAV	25,800円
12.7	2.1	東芝	MK-2104MAV	24,800円
12.7	2.1	日立	DK226A-21	29,800円
12.7	3.2	日立	DK226A-32U	42,200円
12.7	3.2	東芝	MK-3205MAV	39,600円
12.7	3.2	アイ・オー・データ	HDNV-3.2G	36,800円
12.7	4.1	日立	DK227A-41	57,800円



見た目は同じようなノートPC用内蔵型ハードディスクだが、厚さには注意が必要だ。
(写真はアイ・オー・データ機器のHDNVシリーズ)

トップPC用に比べて高めだが、容量で見ると、6Gバイトクラスまで出てきた。

この表で気をつけてほしいのが、「厚さ」の欄だ。ノートPC用内蔵ハードディスクには、8.5ミリから12.7ミリまで、4つのサイズ(厚さ)がある。たとえばVAIO PCG 505系は8.5ミリなので、いくら4Gバイトクラスが入れたくても入らない。逆に、12.7ミリを採用しているLet's note AL-N1-T515J5シリーズなら、12.5ミリのものを含めて多くの選択肢があるというわけだ。

とはいうものの、マニュアルやカタログにはハードディスクの容量は書いてあっても、厚さまでは書いていないことが多いはずだ。購入するときには、ショップで自分のノートPCの機種を告げて相談するのがいいだろう。また、機種名は同じでもバージョンによってハードディスクのサイズが変わってしまい、使用できるハードディスクが異なってくる場合があるので、相談する際には機種名だけでなく型番も控えていくことをおすすめする。

ノートPCのハードディスクの交換は、デスクトップPCに比べて面倒なものが多く、基板の配置から「個人では無理」というようなものもある。さらにBIOSの設定変更によるハ

ードディスクの認識や、その後のデータの移行などの作業もある。

しかも、ハードディスクを交換するとメーカー保証の対象外になってしまう。だから、自信のない人は、購入だけでなく交換まで専門のショップに頼むのがいいだろう。

下の表はノートPCのハードディスクの販売だけでなく、交換作業まで行ってくれるショップだ。ショップによって違いはあるが、交換の工賃は3,000円～6,000円程度。さらにそれまでのハードディスクからのデータなどの移行も行ってくれる(別料金)。時間のほうは、速いショップでは数時間で、長くても1週間から10日程度で交換してくれる。また、直接ショップに行けなくても、マシンを送って作業してもらうこともできる。ショップによっては、メーカー保証がなくなる代わりに独自の保証(期間は異なる)まで付けてくれることがある。数時間もかけて自分で交換作業をして失敗し、故障したり保証がなくなったりしてしまうことを考えれば、数千円の工賃は決して高くはないだろう。

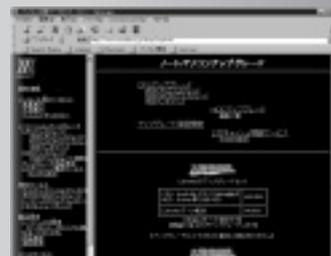
各ショップの対応やハードディスクの価格、工賃については、それぞれのホームページを見よう。



ノートPCのハードディスクを交換してくれる主なパソコンショップ

店名	URL	電話番号	所在地
アイ・ツーモバイル専科	http://www.i-two.com/	03-3254-1213	東京都千代田区外神田3-8-17
アイ・ツーウルフ館	http://www.i-two.com/	06-647-1712	大阪府大阪市浪速区日本橋4-15-18
T・ZONE ミナミ8F PC工房	http://www.ado.co.jp/T-ZONE/intro/	03-5295-8774	東京都千代田区外神田4-3-3
マクスコンピューター	http://www.maxuscomputer.com/	03-5296-0486	東京都千代田区外神田1-8-3野水ビル5F
JC WORLD	http://www.jcworld.co.jp/	03-5256-1951	東京都千代田区外神田1-3-7
パソコン工房 ワークビット	http://www.workbit.co.jp/	0462-63-1598	神奈川県大和市中央1?2?2第2銀長ビル1F

ワークビットのホームページには、ノートPCのさまざまなアップグレードサービスの情報がある。



モバイルの
技

CD-ROMを丸ごと圧縮してハードディスクに!

最近ではノートPCのパフォーマンスもデスクトップPCと遜色なくなってきた。だが、「モバイル用」と考えると、フロッピーやCD-ROMドライブを装備しないマシンが多い。このようなマシンは、起動や動作中のデータアクセスにCD-ROMが必要なソフトが使えないわけだ。しかし、世の中便利なもので、CD-ROMを丸ごと圧縮してハードディスクにコピーし、それを仮想的にCD-ROMドライブとして使えるようになるソフト

があるのだ。これを使えば、いくらでも仮想的ドライブが作れるので(上限はあるが)本物のCD-ROMドライブと違って複数のCD-ROMを交換することなしに使うことができる。百科事典やゲーム、地図やビデオ、音楽CDなど、ハードディスクが許す限り「持ち歩く」ことができるのだ。大容量ハードディスクに交換して、さらに不要アプリケーションを整理して余力ができたなら、ぜひ使ってみよう。



画面写真はソースの「携速95+CDエディタ」(11,800円)。このほか、アーク情報システムの「CD革命Virtual Ver.2.0」(12,800円)も人気が高い。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp